

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 4 年 5 月 23 日(2022.5.23)

【公開番号】特開 2020-108647(P2020-108647A)

【公開日】令和 2 年 7 月 16 日(2020.7.16)

【年通号数】公開・登録公報 2020-028

【出願番号】特願 2019-398(P2019-398)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02(2006.01)

10

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】

【提出日】令和 4 年 5 月 13 日(2022.5.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技球が通過可能な通過領域と、

遊技球が前記通過領域を通過容易となる第 1 の状態と遊技球が前記通過領域を通過困難となる第 2 の状態とに変位可能な変位部材と、を有する遊技盤を備えた遊技機であって、

遊技球が転動可能な球通路と、

遊技球が流入可能な流入口と、を有し、

前記変位部材は、

第 1 の変位部材と、

前記第 1 の変位部材より下流側に設けられ、前記第 1 の変位部材とは異なる第 2 の変位部材と、を含み、

30

前記球通路は、

前記第 1 の変位部材の上流側部位と隣り合う第 1 の球通路と、

前記第 1 の変位部材の下流側部位と隣り合う第 2 の球通路と、を含み、

前記流入口は、前記第 2 の球通路の途中に設けられ、

前記第 1 の変位部材が前記第 2 の状態となった場合に遊技球が転動可能な底面部となり、周囲の壁部とともに遊技球が転動可能な第 3 の球通路を構成し、

前記底面部は、前記遊技盤の盤面に略平行な第 1 の方向と、前記遊技盤の盤面に略垂直な第 2 の方向と、に遊技球の転動方向を変更可能な第 1 の方向変更部を有することを特徴とする遊技機。

40

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 4】

しかしながら、上記従来の遊技機では、遊技球の転動方向を変更しつつもスムーズに遊技球を導くことができないという難点があった。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

50

【補正対象項目名】 0 0 0 5

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 5 】

本発明は、上記の点に鑑みてなされたものであり、遊技球の転動方向を変更しつつもスムーズに遊技球を導くことができる遊技機を提供することを目的とする。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 6

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 6 】

上記の目的を達成するために、本発明は、以下のような遊技機を提供する。

本発明は、

遊技球が通過可能な通過領域と、

遊技球が前記通過領域を通過容易となる第 1 の状態と遊技球が前記通過領域を通過困難となる第 2 の状態とに変位可能な変位部材と、を有する遊技盤を備えた遊技機であって、

遊技球が転動可能な球通路と、

遊技球が流入可能な流入口と、を有し、

前記変位部材は、

第 1 の変位部材と、

前記第 1 の変位部材より下流側に設けられ、前記第 1 の変位部材とは異なる第 2 の変位部材と、を含み、

前記球通路は、

前記第 1 の変位部材の上流側部位と隣り合う第 1 の球通路と、

前記第 1 の変位部材の下流側部位と隣り合う第 2 の球通路と、を含み、

前記流入口は、前記第 2 の球通路の途中に設けられ、

前記第 1 の変位部材が前記第 2 の状態となった場合に遊技球が転動可能な底面部となり、周囲の壁部とともに遊技球が転動可能な第 3 の球通路を構成し、

前記底面部は、前記遊技盤の盤面に略平行な第 1 の方向と、前記遊技盤の盤面に略垂直な第 2 の方向と、に遊技球の転動方向を変更可能な第 1 の方向変更部を有することを特徴とする遊技機。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 9

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 9 】

本発明によれば、遊技球の転動方向を変更しつつもスムーズに遊技球を導くことができる遊技機を提供することができる。

10

20

30

40

50